

理学療法学教育においては、標準的なテキストをはじめとした学習支援が図られつつある一方で、実践能力を高めるためのカリキュラムが求められている。今日の医療・教育環境においては、実践能力の育成を臨床実習のみに託すことは許されず、学内教育におけるカリキュラムの整備が急務である。

本特集では、実践能力を高めるカリキュラムについて、医療系教育の動向とともに理学療法学教育施設の実態と特徴を示すことができた。それぞれの独創的な取り組みは、すぐにでも参考となる内容で圧巻といえる。

■医療系教育における実践能力を高めるカリキュラム (吉田素文論文)

効果的な臨床医学教育を目指し、国内の大学医学部で取り組まれている改革の試みについて、約20年前と現在のカリキュラムの比較をもとに紹介する。キーワード：臓器別統合カリキュラム、問題基盤型チュートリアル、安全管理や生命倫理、移植医療などの医療における新しい分野の科目、臨床実習前の系統的基本的臨床技能トレーニングとOSCE、共用試験、診療参加型臨床実習。

■理学療法学教育における実践能力を高めるカリキュラム (内山 靖, 他論文)

理学療法学教育において、今、なぜ実践能力が問われているのかの背景を整理し、学内教育における実践能力への取り組みについての全国調査の結果を示した。また、医療系教育における実践能力の取り組みの現状を紹介し、理学療法学教育における実践能力を高めるための方策を考察した。

■実践能力を高めるための特色ある理学療法教育方法：

～問題解決思考を高めるための取り組み (伊藤俊一, 他論文)

在学中は、実践能力を高めるため宿泊研修や演習講義に実習終了後の先輩も介入させ、問題解決思考の喚起を促す講義を学年ごとに何度か設定している。また、卒業教育用に開発したTV会議システムを利用し、実際の臨床現場と結んでの症例検討会を講義に活用し、学年を超えた授業を有機的にリンクさせ“考えさせる”授業の開催を目標としている。療法士教育を厳しく見直す時期が来ている。

～臨床的推論能力の向上を目標とした教育方略 (有馬慶美, 他論文)

臨床的推論とは患者の抱える問題を解決するための思考過程である。学生の推論能力を向上させることは問題解決能力を向上させることと等しい。しかしながら、実践力としての推論能力の育成は決して容易ではない。この小論においては、臨床的推論の一般的な教育方略を述べた後に、本校における臨床的推論の教育方略の変遷、また効果や問題点について紹介する。

～グループ学習や学年を超えた合同学習ならびに口頭試問等の試み (藤沢しげ子, 他論文)

医学医療を取り巻く情勢の変化は目覚しく、医療関連職種教育においても実践能力を向上させるための検討が行われて久しい。国際医療福祉大学保健学部理学療法学科では1学年80名定員で教育を始めるにあたり、小人数のグループ教育を授業に取り入れるなど、様々な工夫を重ねてきた。グループ学習、学年を超えた合同学習、キーワード方式による口頭試問などその工夫の一端を紹介する。

～コミュニケーションスキルを向上させるための教育的試行 (松本直人, 他論文)

高校からの現役入学者を対象に、臨床技能の一つであるコミュニケーションスキルを向上させるために、アサーティブネス理論を用いた教育方法の有効性について述べた。さらに、実践能力向上のための試行として旧来の教育方法を再検討し、総括的評価から形成的評価へのウエイトシフトと、問題基盤型学習の導入過程における課題を紹介した。

～グループ学習を通じた実践能力の育成 (杉浦昌己, 他論文)

学内教育で実践能力のある理学療法士を育てるためには、知識や技術を単に教えるだけではなく、それを適切に使えるようにすることが重要である。本校では、実践能力を高める手段として少人数によるグループ学習を取り入れることで、学生が思考過程について学習すると共に、討論や対話を通じて対人相互の関係について考えることになり、自ら学ぼうとする向上心の芽生えにつながっている。

～チーム医療のための Inter-professional Education および実習科目における工夫（武政誠一，他論文）

チーム医療を担う様々な医療従事者の専門職業性の専門分化・高度化が要求され，その養成にはより実践的な教育が要求されるようになってきた．本学で実施している「初期体験実習」をもとに，看護学専攻，検査技術学専攻，理学療法学専攻，作業療法学専攻の4専攻で行っているチーム医療のためのIPEを中心に述べた．今後，より高度な実践能力を備えた，よりきめ細かな設計が重要となる．

～模擬患者教育と情報科学演習科目の紹介（板場英行論文）

本学院で実施している模擬患者教育と情報科学演習科目を紹介した．模擬患者教育は，シミュレーション授業と紙上患者による学生参加型の教育展開で，長期臨床実習に好結果をもたらしている．情報科学演習はグループ学習形式で，IT情報を活用できる理学療法士の育成に有効である．また，臨床実践能力の向上には，セルフ・マネジメント行動強化が不可欠である．

～特に情意領域教育について（天満和人論文）

理学療法士養成においては，他の医療職同様，認知領域，情意領域，精神運動領域におよぶ一定の能力を卒前教育において涵養することが求められている．本学院では数年前より，特に情意領域の涵養のため，教育課程の中に，マナー教育(今後より適切な名称に変更の可能性あり)を位置付け，学生教育を行っているので紹介する．また，認知・精神運動領域の対策についても言及する．